

眺むるをえたるは、満足とする所である。

一方には小蒸氣が旅客と郵便物を載せて來た。前者よりも後者の夥しいのに驚いた。とにかく郵便袋は數百個もあらう、小蒸氣の甲板の上に小山のごとく積んである。愛蘭人が北米に於ける數と勢力とこれで略推測することが出来るのである。そのうちに一艘の小舟が近いて來た。その中に二人の舟子と二人の老婆が乗つてゐる。驚いたことは大船の船側から太い繩が下ると、老婆の一人がこれに腰をつるされて船に引き揚げられる。宛然小猿の輕業の横た。續いて籠が上げられる。他の婆さんも引き揚げられる。この籠の中には愛蘭の名物が這入つてゐる。婆さん達はこれを船客に賣りに來たのである。ステッキもある。毛絲の織物もある。刻物もある。げに人生のなりはひはいかにつらいかな。僅かばかりの利益をえんがために、老婦人の身を以て猶小猿の様な冒險をせねばならぬのである。

船は再び航路を西にむけた。浪は依然として高い。右手には遙かに愛蘭の西南海岸をのぞむ。午後七時半頃一孤島の上に燈臺をみとむ。これからはいよいよ大西洋に乗り出すのである。

##### 五 水上の小社會

愛蘭の沖より西へ西へとアドリアチック號は、晝夜の區別なく、黒煙を吐いて進む。折々は遠い地平線に汽船の見ゆるともあるが、まづ常にみゆるは空と波のみである。船中の客はあらゆる階級を網羅してゐる。國をいへば歐洲の各國は申す迄もなく、東はスリア、日本をふくみ、南北アメリカの數邦をも含んでゐる。一等には淺野海軍大佐がゐるので、僕は時々のだき込むが、茲にも面白い社會があらはれてゐる。三等の移住民の研究は興味あることなれども、われらの二等客の觀察も中々捨てがたきものがある。僕等の旅仲間はまだことに多方面の人々を包容してゐる。實業家もゐる、宗教家もゐる、傳道者も



ゐる、中流の移民もある、役者もある、婦人の體操教師もある、哲學の研究家もある、一等旅客の自働車御者セルフ・コンダクターもある、御附の女中らしい者もある。この二等客三百人は雜然として大社會の一縮寫である。僕は談笑の間、しらぬ振しながら彼等の行動を視察してゐる。歐米人の氣象と品行とを判讀するにこの上もない機會であるからである。

兎に角北米合衆國の引力の強いのは驚くより外はない。領土世界に恰き大英國よりすら、運命をその地に開拓せんと志すものが少くない。ミシガンに移住せんとするブリマウスから來たものは親類同志二三家族はある、ブルックリンの娘達に呼ばれゆくサウザンプトンの一老婦人は年若い娘さんを連れてゐる。英蘭のポストンの雜貨商をやめてカリフォルニアはローサンゼルスに果園を起さんとする若夫婦もある。若しそれ歐洲大陸よりの旅客を檢分すれば、多くは波蘭人である。猶太人も多い。彼等は英語を話さざるもの多いが、

獨逸語か佛蘭西語を操つる。日露戰爭のおかげで、これらの連中は僕に對して色々のことをきく。いづれにしても獨逸語の勢力は年々増大するばかりな様だ。米國の猶太人で自由に獨逸語を話すものが多い様だ。僕はこの船中の社會より推測して、北米に於ける獨逸の潛勢力を想像することが出来る。自働車の御者や、旅役者や、拳闘家や、かゝる御連中は朝から晩までわい／＼騒いでゐる。暇さへあれば賭博をやる。心ある米人はこのかけ事は米國の呪咀であると思ひすれども仕方がない。

或夕方であつた。三等二等との間にズツクの幕が張つてある。三等の旅客は手風琴の伴奏で舞踏を初めた二等客中のいたづら者が幕の隙間から三等客の足を掻き漑つた。それが抑の初まりで互にいたづらの仕くらべをやつた。箒の奪いつこや、棒のつかあいや、はては甲板上のトロンコトロンコの分捕騒ぎまでやつて、やんやとわめいた。最後に二等客の撰手連が一人の三等客を捕虜と



して鐵の梯子に縛りつけて、懷中ピストルなどを取り出して、狙撃の眞似事などをやつて興じた。まづこれらは罪のないいたづら事である。

これもある夕の事、力自慢の獨逸の屠獸者が瑞典式體操の女教師と散歩してゐたが、相撲をとる相談が熟して、二人むんづと取り組だ。女の方は六尺近い長身であるが、輕いので男は折々懷き上げるが抛げることは出来ぬ。大汗を流して格闘十分計にて引き分けとなつた。屠獸者は女の怪力に驚歎してゐた。

羅馬教會の僧侶が三名、尼さんが二人ゐる。僧侶の中二人は青年で四年間、奧地利のインスブルグの大學で神學研究を卒へて、バツファローに歸るのだといふ。一人はまことに好人物。僕は度々この青年と談話する。露西亞のリシニアの一青年は哲學の研究者で、瑞西のツーリヒ大學の業を卒へ、更に數年の見學を米國に積まんとしてゐる。獨佛語は自由に話すので、僕にとりて語學研究

の好個の相手である。アルゼンチンの一老人は瑞典から移住したのだといふ。人工降雨法を發明をしたので、日本へもバテントを賣りたいといふ。傍ら傳道に熱心な人である。

二等客には上品の人は少ない。若夫婦などが人目を憚らず、あまえてゐるのは、あまり感心されぬ。西洋人は東洋人の消極的道德の素養が足りない。我等は西洋を學ぶと共に、彼等も或點に於ては東洋を則とせなければならぬではないか。いつか中甲板より三等の旅客を見下してゐると、助平といふ奴がある。みれば五十歳位の老水夫だ。この船の水夫ではない。桑港へかへるのだといふ。瑞西生れの男だ。二年前に長崎に行つて、この語を覚えて來たといふ。不完全でも英獨佛語を話しわけける不届男である。僕は獨逸語でかゝる語を再びいふなと叱りつけてやつたら、黙つて了つた。翌日他の若い三等客がまた僕をみて。同じ言語を繰り返した。これも叱りつけたら黙した。祖國に於て公娼制



度を存し、醜業婦を世界に供給する間は、日本に生れた因果として、大西洋の真中でこの侮辱をうけるのである。日本に於て最も大切なる問題は廢娼問題である。

かゝる下等な連中は顧みるに足らぬ。僕の最も面白い友達は船中二十餘名の少年少女である。ミストル、シヤパンチースは彼等の間に最も人望ある友である。ミストル、シヤパンチースは甲板にさへ出ると、子供達に包圍される。手をひくもある、肩にのるもある、日本字で名を書てくれといふもある。うるさい程つき纏ふが、僕は天眞爛漫なる英米の子供を愛せずにはゐられない。あゝ彼等は水上の社會の花である、光である。

#### 六 大西洋上の日曜日

何處で迎ても日曜は日曜である。されども初めて渡る大西洋上のそれといへば何となく珍しい。七月二日の朝は昨日に引き續いて見事に洋上に明け渡

つた。朝食の食堂は一昨日來の快晴の結果いちゞるしく、殆んど空席がない。この三四日閉ぢ籠つてばかりゐたスリア人の妻君も、力なげながらも良人の腕にすがつて、僕の隣に着席した程である。

午前十時半に食堂に禮拜は始まる。司會者は副長某氏。英國々旗にて作れる小布團の上に英國々教會の祈禱書が載つてゐる。會衆は彼是六七十人もあらうか。二等客の先づ四分の一あるかなしだ。それもその筈だ。羅馬教會の僧侶も、尼さんも來ず、英語のわからぬ大陸人も來ず、小理窟をいふ非國教徒も來ぬから、數は少ないにさまつてゐる。僕は英國々教會に屬するものでないが、差支ない限りはいづれの宗派の人々とも禮拜を共にする積である。副長は「聖なるかな聖なるかな」の讚美歌を以てはじめ、祈禱書の或部分を讀み、會衆は之に應じた。説教は拔きにした禮拜であるが、祈禱書があるので専門家ならぬ副長もこの大役を無難につとめた。この點に於て羅馬教會と英國々教會と



に祈禱書のある利益がわかる。藍のごとき深碧なる空と水との間に、ゆられ  
く／＼なから祈る心そげに美はしからずや。英米の船舶嚴乎として此制度を存  
するは、まことに美風である。午食前に船員の短艇操縦の訓練がある。いはゞ  
一種の檢閲式に過ぎぬが、退屈凌ぎに大勢の人々が見物してゐる。流石は英國  
風の支配する船中のこととして、遊戯は一切禁物、即ち抛輪も押球も皆箱の中  
に收められてある。將基盤すら何處かへ隠されて了うた。大陸から渡米する旅  
客は不思議な感に打たれたであらう。されど一週に一度規律よく、精神的修養  
のために一日を聖別する制度は、まことに望ましいことである。基督教的教  
育の功果は單に教義上に存するにあらずして、大にその制度に存することを  
學ばねばならぬ。

夕食後の甲板は色めき渡つた。幾十人といふ散歩の群集が往來する。ほろ  
酔加減の男女さへある。自働車の御者や、何かの連中は、女中風情の婦人連に

からかつたりする。折角の日曜日午後的神聖と靜肅とを穢すとは、まことにひ  
どい奴らだと見てゐた。すると甲板の一隅に樂器を持ち出した一紳士がある。  
前日僕に日米問題に關して質問を出した人である。二三冊の讚美歌を卓上に  
のせてある。いはずしてその傳道者<sup>エヴァンゼリスト</sup>なるを知る。彼はサンキ、アレキサンダ  
ー等の作曲と覺しき讚美歌を謳ひはじめた。四圍の男女老若もこれに和した。  
折しも夕日は美はしく水平線上に沈まんとして、波のいる美はしともいはん  
方なし。歌はこの自然の妙調につれて進む。この勢に恐れていかゞはしい連中  
は遙かあなたに退却したのが實に小氣味がよかつた。のみならず、このうち  
の一人二人づゝ歸り來りて、眞面目になりて傳道者の教訓に耳かたひくるも  
のもあつた。そこで僕は所謂エヴァンゼリストは米國の社會には中々大切な  
役目をつとむる者であると悟つた。日本へこの儘入れば駄目だが、趣味の低  
い移住民の歐大陸より流れ込む米國の教化にはかくべからざる社會教育の機



關であらう。僕はこの目前の現象より、今更のごとくムーデーの事業の米國に於ける意義を理解することをえた。傳道者が最後にニューマンの有名なる「みめぐみある光よ」の歌の合唱を會衆に求めたのは嬉しかつた。船中音楽隊は午後七時半より食堂にて管絃樂を奏した。バッハ、ヘンデルの宗教樂にワグネルのタンホイゼル、ローヘングリンの或部分をも演奏した。かくして波の上の日曜日はい清い餘韻を乗客の心にのこした。

新月うるはしく浪をてらし、星斗まだらに空にちらばり、水色紫がよりて一種の凄さを帯びてゐる。

#### 七 濃霧の一晝夜

水より水に渡る空をながめ、空より空をひたす水に浮んで大船は、西南へと絶えず進む。一晝夜の平均航路はまづざつと四百二十哩。クイントウン港外を辭してからはや四日を経た。船上の生活はあまりに變化はない。食ひ、

動き、話し、笑ひ、読み、書き遂にに疲れてベッドの中にもぐり込む。日和よろしければ、海もほゝえみ、空も喜び、魚も躍る。甲板のうへ笑ひさゞめく聲響き渡りて、海神も驚かんばかり。體格のよい歐米の人間はまことに羨しい。英國風の朝食をした、かに腹に詰め込んで満足せず、やがてバーに入りびたりて、酒杯を離さぬも多い。食堂をかゝす人々も指折り數ふるばかり。歐米文明に暗黒面もないことはあるまい。その人種は必ずしも紳士淑女の團體のみではない。されど食ひ、且つ働いて、精力常に五體に張り切つてゐるは大に羨しい。日本國民の大問題はいかにして此動物力の盛んなる人種と平和の競争をなすべきかといふとである。我等は餘りに久しく消極的道德の訓練を経た。何でも上から押へ付けられる。女が少々活潑になると直ぐに御轉婆だとか、生意氣だとかいふ陰言がかゝる。稍天真爛漫に振舞へば、あの男は自重心がないとけなされる。巧言令色仁鮮しと孔子の教訓を杓子定規に解釋して、沈黙



の人をのみ尊敬して辯舌の練習を忽にする。勤儉力行と稱して米飯に鹽をかけてくらひ、疊の上にごろりと轉がりて、肱を枕にして、樂み此處にありと顔回を氣取る。かゝる工合で、無遠慮な押し強い、飽まで進取的な米國人などどどうして競争が出来るであらう。米人に缺點はどつさりあるが、日本に二十八倍する地面を日本の人口に二倍と上らぬ數の人間で支配して、世界の富強を以て任じてゐるのである。わが同胞よ、爾の眼を高くあげよ、廣く察せよ、而して深く考へよ。高枕安臥の時にあらず、醒めよ、あゝ醒めて國民の使命を三考せよ。

さて話しがそれだが、七月二日の夕方から波が高くなりはじめた。段々ニユー、フオンドランド沖に近い北極よりの寒潮と、メキシコ灣からの暖流と衝突する地點に近づきつゝあるのである。三日の朝起きいづると、どうも揺れ方が變だ。何だか胸が悪くなる。そこく衣を更へて甲板にいづると、これ

はしたり、霧ふかきわたつ海に浪頭碎けて、白泡を吹く大波小波勢よく狂ひまはる。しぶきは甲板をひたして、いつものごとく散歩もなりがたし。朝食後はことに烈しく、午食には珍しく大勢の人々が欠けた。中甲板の安樂椅子にもたれ、毛布に包まれて、僅ばかりの茶やパンをとるもある。

かく申す僕は幼時より船に弱く、三年前歐洲行に上つた時も何よりも心配なのは航海であつた。初秋の日本海の浪は高く、敦賀から浦鹽まで三十六時間は絶食の有様であつた。歐洲大陸の汽車旅行は和蘭のフラスシンゲンに終りて、英國海峡を渡る時に再び心配したが、大したこともなかつた。昨年春愛蘭に渡らんとして、愛蘭海峡の荒れるよしを聞いて、オックスフォードの薬店でゾートスといふ船酔の薬を求めた。しかるに同行者の都合にて蘇格蘭のエデンバラーに行つたので、服薬せずに済んだ。昨年の夏獨逸に行く途すがら、ドゥッアー港から白耳義のオステンドに渡つた。波や、高かつたが、薬は



空しくポケットに残つた。その歸途再びフランシンゲンより英國のクインズ  
ボローに來たが、この時も酔はなかつた。今年四月南歐の旅行の折、英國海峽  
を往來したが、この折も無難であつた。過日の大觀艦式の折、スピット  
の「鞍馬」から。艦載水雷艇でポーツマウス港まで送られたが、小さい船である  
から随分もまれて、氣分が少々悪くなつたが、大したこともなかつた。かゝる  
經驗を積んでから、僕も海を恐れぬ様になつた。この心理的理由は僕が酔は  
ずに大西洋を航しつゝある原因であるかもしれぬ。しかしゾートスは愛蘭沖  
でも、又この度のしけにも服用した。此の薬はカプシユール入りの健胃劑で、  
食前三十分に試むるのである。効驗が頗る著しい。勿論豫防薬であるから、  
酔つてからは駄目である。十五回分入れの小箱が二シリング半である、ロン  
ドンの製薬である。船に弱い人には僕はこれを推薦したい。一等客中にテキ  
サスの一老婦人がゐる。ラフォカデ、オハアン先生の愛讀者で、淺野大佐にそ

の話をした。大佐は僕を呼んで、その老婦人に紹介した。この老婦人は伊太  
利に二ヶ月の旅をして、戴冠式をみて歸るのである。大した日本好きの人で、  
桑港の震災の折、日本が第一番に救恤費をくれたことが嬉しいとか、同地で日  
本人が嫌はれるのは、何處の學校でも名譽は悉く日本學生の手に歸するから、  
白人の嫉妬があるのだなどといふ。南部アメリカに於ける小泉八雲先生の生  
涯などを語り合つた。此老婦人は死ぬる前には一度日本に行つて、桃や、櫻  
や、藤や、杜若花や、日光などを見たいといふ、話し興じて船外の荒波をも  
忘れた。船中生活の一興であつた。しけは僕が床に入つた後までやまない。  
二萬五千噸の大船を遊ぶ大自然の偉力を驚異すべきかなである。

#### 八 船中の獨立祭

北米合衆國に行く航海中に、運よく七月四日の紀念日を迎へたることは面  
白いことである。二三日前より米國人の有志者は運動會の寄附金を集め、音樂



會の目録を作るに忙はしさにみえた。二等客中には滑稽役者、拳闘家、自轉車の曲乗男や、この種の人物が小澤山にあるので、かかる場合には萬事が具合よく運んだ。濃霧の一晝夜は過ぎて、四日の朝日は威勢よく波を照して、天も亦米人の御祭騒ぎに同情する様に思はれた。船中の一同、誰彼の別なく、愁眉を開いて目出度いことであると語り合ふ。

朝食後に数名の委員は、この日の執行順序に紺の星條旗を添へて、六片にて賣りてある。例の米國風で片つ端から押賣りをするのであるが、僕は寧ろ彼等の無邪氣なるを愛した。午前九時半に短銃の空砲が響き渡る。やがて船中音樂隊が米國々歌を奏するにつれて、百人あまりの連中行列を作りて、甲板を練り歩いた。今日は米國以外の人々も祝意を表して星條旗を胸の釦に結び付ける。午前十時にいよいよ運動會がはじまる。二等と三等との隔ての幕を高く括り上げたれば、三等の男女いづれも珍しげにこの方をのぞき込む。まづ鶏

闘からはじまる。これは尻を落ちつけ膝の下に棒を挟みて、日本の足相撲のごとき事をするのである。佛蘭西流の同じ名の遊戯とは大に異なる。その次は當日の呼物、瑞典一力持の婦人と自轉車の曲乗男との相撲。痩せ男ではあるが早業の達人にてどうしても仰向けに倒れない。されども大身強力の婦人に押しつけられて、遂にとうとう降参してしまつた。次は肥滿競走で、二百ポンド以上の重量のあるものの取り組みである。僕も入れられる所であつたが十五六ポンド足らぬので、御許しになつたのは難有い。繼いて自轉車の曲乗りに拍手喝采の聲しばしはやまない。

少年少女の競争がある。ミストル、ジャバンネースとならば日本へもついで行くといふゼロルド、ノースcottといふ六歳になる可愛い英國の少年が、僅かの差でまけたのは残念であつた。午後二時に再び遊戯がはじまつた。婦人達の競走や、獨乙の屠獸者をして名をなさしめたる相撲や、國際競走や、拳闘



やがあつた。國際競走では僕をも入れやうとしたさうだが、丁度室に行つてゐたので、これも免かれて嬉しかつた。夕方三等客は綱引をしてうち興じた。一等客も一寸運動會をやり、夕は舞踏會を開いた様だ。三等客は毎日、朝から晩まで、歌ひ、且つ舞ふのだから、今日だからといふて格別の差はない。

夕食後食堂にて音樂會が開られた。重に英米の快活な歌がうたはれた。しかし上すべりの道化じみたものが多い。指名されて起つた獨乙の屠獸者が堂々として雄健なる獨逸語の詩を唱したのは氣持がよかつた。獨逸の唱歌は豪宕の精神にみちてゐる。英國のは愉快なものが多い。米國のはこれに之をかけた様なものだと思ふ。しかし日本の俗謡に比すれば遙かに上品だ。船中の獨立祭はかくして過ぎた。されど、今日の米人中、建國の精神を偲ぶもの果して幾人かある。

### 地名に顯はれたる米國魂

今日我民族と密接の關係を有するもの先づ指を北米合衆國に推さざるを得ない。北米合衆國を研究するは我民族の焦眉の急である。米國の富に驚くものはある、米人の智の大に驚くものもある。されど米國建立の精神を追回し、彼の長所を學びて我の短を補ひ、以て我精神と彼のそれとを相砥礪せしめんとする人々は甚だ少ないと思ふ。余は専門に米國の歴史を研究したことはないが、語學研究の傍、彼の地名の起原を考察し、彼等民族の精神を幾分か理解し得たりと信ずる。茲にその一端を記して好學の士の教を乞はんと欲するのである。

手短に言へば、亞米利加大陸は南歐維巴人種によりて發見せられたのである。感情的にして冒險的精神の勃々たる諸民族——倫理的よりも寧ろ藝術的



羅馬教を信奉したる諸民族によりて發見せられたのである。故に米大陸の多くの地名は十中八九までこの方面の聯想を惹起する。コロンブスは空前の冒險家であると同時に熱心なる羅馬教徒であつた。彼が空前の大航海に上つたものも東洋傳道のために近路を供したい希望があつた爲めともいはれる。彼が最初に發見した西印度の一島に附した名は San Salvador (サン・サルヴァドール)である。これは英語で Holy Saviour (聖救主)を意味する西班牙語である。如何に冒險的精神が盛大であつたにせよ、不完全なる帆船で數千哩の波濤を凌がんとするのである。さらでだに信心篤き航海者は特に日夜熱禱に思を凝らしたことであつたらう。のみならず、最初は好奇心と冒險心とより、コロンブスの部下に馳せ参じたる水夫共も、幾日たても眼に入るものは水と空とのみなれば、彼等の堪忍袋もあはや破裂せんとした。動もすると一掬の噂さが持ち上がる。之をなだむるコロンブスの苦心は船を操るその幾倍で

あつたかも知れぬ。出帆以來七十日目の夜、暗を覗んだコロンブスの眼に朧げに陸地らしきものが見えた。船が進むにつれて、夜が明くるに従ひて、愈々それは陸地と解かつた。翌曉彼は希望と感謝に満ちて新大陸の土を踏んだ。幼時より夢にも忘れかねた目的の地は今彼の足下に横はつて居たのである。彼は感謝の餘り、大地に跪きて熱禱を捧げた。彼にとりてこの一小島は救主であつた。この一小島が發見せられなかつたならば、彼は空しく大航海を中止せねばならなかつたかも知れない。故に彼はこの島に命名するに「聖救主」を以てしたのである。あゝ救主よ彼の危険多き航海を保護したる救主よ。

コロンブスの後に續いて、米大陸に航したる冒險者の或者の亂行貪欲は史上有名なる事實である。然れども彼等が足を新大陸に印するや、彼等は之を神に捧げ、神の王國をこの新天地に擴張せんと志し、その徽號たる十字架を永遠に建立せんとし、多くの地名に Santa Cruz 又は Vera Cruz を採用した。是等



は Holy Cross 聖十字架の意味である。彼等の傳奇的信仰また美はしからずやである。

西班牙人は初て上陸したる南米の一角に San Sebastian 聖セバステアンと命名した。彼等が上陸するや七十人餘りの同胞が印度人の毒箭に斃れた。彼等は前途を想像して殉教者として焚殺せられたる聖セバステアンの靈に保護を委ねたである。

北米合衆國も米大陸全體と同じく宗教的聯想を有する地名に富んで居る。南方半島 Florida フロリダは往々にして花彩半島と譯される語であるが、その地は滿目荒涼の沼澤が多くして、花を聯想せしむる點はないといふことである。該地は西班牙人によりて基督復活祭當日に發見せられた。西班牙人は該祭日をば Pascua Florida と呼ぶ。その日には花を以て寺院を裝飾するからである。序に Dominica ドミニカ島は日曜に發見せられたのである。即ち羅

旬語 dies Dominica 主の日(日曜日)に起原を有する。南亞米利加の Natal ナタルはガスコデ、ガマによりてクリスマスに發見せられたのである。即ち dies Natalis は降誕祭といふ羅旬語である。米國最古の都會 St. Augustine はフロリダ沿岸に隱退したるユージェノイ徒迫害のために、西班牙のフィリップ第二世に派遣せられたるメレンデズが、聖アウガスタンの祭日に建設せられたのである。米國に羅馬教會の聖人の名に縁める、地名の多いのは同一理由に基く。太平洋岸にありて、我國と種々の關係を有する San Francisco は西班牙語で聖フランシスを意味し、フランシス派の托鉢僧が傳道局を置いた所である。この宗教的命名を有する同地が、排日問題の本家本元となつて居るは、驚くべきことである。而して支那人は同港が支那の東方にある港といふので、扶桑の港と呼び、之を略して桑港と稱した。それを日本人は此頃はソーコーと發音して居る。滑稽も甚しいかなである。



千五百八十年代には、州の名の起原に興味ある聯想が伴うて居る。Virginia 州はローレー卿が開いた殖民地で、處女王エリサベスを記念するために、かく名けたのである。千六百六年に、ジェームス第一世は、一はロンドン商人より、他はブリマス商人より或る二會社を組織し、當時は南フロリダより北はメソ州に亘れるヴァージニアの殖民を奨励した。最初の移民は重に柔弱なる貴公子風情の者ばかりで、大分艱難辛苦を経験した。然るに千六百二年には是と別種類類の移民が太平洋を横りて新英洲を建設した。即ち清教徒である。彼等は本國にありて、國教と一致することが出来ず、信仰のために故郷を棄て、和蘭に航した。彼等は是處に於ても理想郷を見出しかねて、遙々と新大陸に志した。彼等はメーフラワー號に投じて英國海峽を通過した。彼等の最後に瞥見したる故山の地はブリマス港であつた故に、最初に上陸したる地をばブリマスと名けた。主義のためには恩愛の故郷を去つたけれども、故郷は流石になつか

しい。清教徒も矢張り人間である。彼等の殖民地が発達するに従ひて、その首府を Boston と名けた。ボストンは彼等が英國の故郷と慕ふ一小都會である。英國の一小都會は米國の思想界の中心を以て任ずる大都である。米國民族の膨脹力はこの一事に於ても理解することが出来る。彼等は Salem と云ふ都會を作つた。こはエルサレムと同意義である。エルサレムはヘブル語にて「平和のある所」を意味す。清教徒は新大陸に於て理想の宗教的都市を建立せんとしたのであつた。サレムの憲法は嚴重に失した。この市の住人は安息日には、走ること、又は庭園に散歩することや、理髮することや、婦人は小兒に接吻することをも禁せられた。彼等はこの種の宗教的良心を満足せんために、友愛派の信徒を迫害した、然り死を以て迫害した。時に Roger Williams ロージャ、スイリアムスといふサレムの牧師は、大膽にも、かゝる酷薄なる宗教心の決して基督教的精神と一致せざることを公言した。彼は放逐の命令を受けた。



彼は新英州の氷雪の中に投げ出された。彼は十四週間、火もなく、食もなく、家もなくして、うつろ木の中に寒き夢さへ結ぶことが出来なかつた。然るに土人中、彼に同情を寄するものあり、食料と住居とを供したが、この地も清教徒管轄に属するが故に永く落ちつくことが出来ず、五人の友と獨木舟に乗りて流れを下りた。彼が最初に上陸したる地を Providence と呼んだ。プロビデンス即ち攝理はウイリアムスが建設したるロード、アイランド州の首府となつた。

ペンシルヴァニア Pennsylvania の語源にも甚だ興味がある。Sylvania は森林國といふ南歐語である。友愛派の William Penn が卒先して開墾したるが故にペン、シルヴァニアと呼ぶのでめる。當時英國で友愛派が大迫害を受けて六萬人も牢獄に投ぜられたことがあつた。この派の大多数は自由を得んがために新大陸に移住したのであつた。首府 Philadelphia フィラデルフィアは黙

示録にある七教會の一つである。City of Brotherly love 友愛市といふ意味である。英國の迫害、米國の友愛。何等の對照ぞ。この友愛市を略して費府と呼ぶ人がある。費府とは何の意味かある。この二字は贅澤と放蕩とを聯想せしむ。友愛派の精神を耻かしむること大なるものがある。

エリザベス時代の冒険者中 Frobisher や Davis や Hudson や、いづれも錫々たるものである。デギスの名はグリーンランドの海峡の名に遺つて居る。ハドソンの名はハドソン河と、ハドソン灣とに残つて居る。彼はハドソン灣の探検中、凍結期に會し、剩へ食料すら缺乏するに至つた。一行は蛙を食し、苔を嚼まなければならなかつた。彼等は辛うじて幾日分かの食料に供し得べき魚類を捕へた。乗組員は船長を犠牲にしてもこの食料によりて生き延びんと決心し、病者數名と彼をば、無理やり一小舟川に載せて、氷雪の中に流した。空前の冒険家はかくして北海怒濤の中に葬られた。さばれ彼の名は、米大陸の存する限



りは、永遠に記憶せらるゝであらう。太平洋岸のヴァンクーヴァーは同地一帯九千哩の測量をした Captain Vancouver を記念するものである。漢字に晚香坡と記して、薄暮、佳人才子、香水を微風に薫らして散歩する堤つづみと想像せらる。起原を知らずして之を使用するは誠に可笑しい事である。

余は最初に述べべくして忘れた事實がある。即ち America の起原である。コロンブス時代の以太利人に Amerigo Vespucci アメリゴ・ヴェスプッチイと呼べる航海者あり、自らコロンブス以前に米大陸を発見したと稱し、時人も之を信じた。アメリカはアメリゴの轉訛である。米人は後に至りてコロンブスに申譯なしとて、首府ワシントン所在地の政府直轄の一州を特に District of Columbia コロンビア區と呼んで居る。ニュー・ヨルク市の一隅にコロンビア大學のあるのもそのためであらう。

要するに米國の地名の檢閲は吾人をして彼等にして尊敬の念を懐かしむ。

宗教的精神と、冒險的精神との結合は、直に大國民の資格をなして居る。新興國民を以て任じ、世界を敵手として恐れざる日本國民は果して是點に於て彼等より勝れりといふ自覺ありや。

## 米國文明の印象

### 新大陸の玄關

題して『米國文明の印象』と云ふけれ共、素より一貫した議論ではない。唯僕が今回歐洲よりの歸途、米國を漫遊した折、所々に見聞した事實をこゝに話さうと思ふのである。大西洋を横斷して北米合衆國の紐育に上陸すると、旅行者は何人も一種のインスピレーションに打たれざるを得ない。世界一の工業國、世界一の健康都市——先づさう云つた感想である。ハドソン河口に近附くに従ひ、正面には自由の女神像高く聳え、右方にはブルックリンの大



鐵橋怪物の如く横はり、更に左方を望めば、數十階の高樓巨閣空を貫いて、櫛比して居る。その間を静かに波を蹴つてハドソン河の船渠に入る。この眺望はまことに雄大の極みである。米人がニュー、ヨルクを以て世界唯一と自慢するも無理のないことである。旅行者は流石に新大陸の玄關に近附いたと、皆一様に深い感想に打たれる。

#### 世界の都市

紐育市はマンハッタンといふ細長い島の上に建てられた都會で、島の地面には限りがある故、横に發展するを得ずして、上に發展しつゝある。既に四十八階の建物はあつたが、今又まさに五十數階の建築を急いで居る。日本の領事館は或家の十七階目にある。そのある町は西歐テーブルス邊の建物を聯想させ、又ある大通りは巴里その儘の光景を描いて居る。伊太利町もあれば、支那町もある。この點から見ると、紐育は實に亞米利加の都市にあらずして世

界の都ある。歐洲各國を巡遊した者の眼には、各國の長所短所がへゞに雜然として蟬集して居るやうに見られる。就中旅行者の最も痛快に感ずる所は、すべてのものがキビ／＼として、活氣横溢して居ることである。

#### 米人の衣食住

由來、米國は氣候風土が歐洲と異なるので、従つて米人はそれに適應する爲に、衣食住にも矢張一種の米國式を發揮して居る。一例として、食物に就て言へば、東部諸州、殊に紐育は最も暑い土地だから、人々は極く淡泊した食物を好む。果物は彼れ等の第一の好物である。加州産のカンタロープ(Cantaloup)と稱する一種の甜瓜の腸を抜き、その中に砂糖や氷を入れて、匙で抄つて食へたり、バナナを細く切つてそれに牛乳をかけて食べたり、又はフォースと稱する極く手軽な料理を好んで食べる。夏の紐育は氷攻めの都會である。銀行會社、停車場、旅館、下宿屋、乃至は汽車の中でも、氷水を飲ませる。アイス



テエー(ice-tea)と稱して、熱湯に茶を煎じ、更にそれを氷に注いだ飲料がある。これなどは明かに米國式を發揮して居る。人造氷が非常に安價で、その利用があらゆる方面に行き涉つて居るも、し此の氷がないとすれば、紐育の夏は如何ばかり暑いかわからない。七月初旬は殊に暑く、普通の人でも風通しのよい屋根の頂上に寝た。氷の供給不自由な労働者などは、皆な公園へ行つて、新聞を買ひ、その新聞を地上に敷いて寝る。また電氣扇風器が極端にまで使用せられてゐる。日本でも近頃用ゐられて居るが、米國のそれとは到底比較にならない。

#### 傳習打破の米人

暑熱酷烈な土地の一現象として、米國では一般に夏向きの衣服が發達して居る。歐洲では如何なる人でも胴着を着ない者はないが、米國では夏季これを着て居るものが誠に少ない。白襯衣も頭から被るのでなく、前開きのボタ

ン止めのを多く着て居る。米國人の洋袴は緩くて、腰から上が短かい。吊袴帶も用ゐるが、これは極めて稀で、多くは帶皮を用ゐる。その爲に洋袴の腰の周圍に帶皮を止める所が附いて居る。されば歐洲にあつても、米國人は衣服の仕立で直ぐその國籍が分る。夏は特に然りである。單に衣服の仕立方のみならず、その附屬品、例へば襟飾の如きも非常に發達して居る。労働者などは上衣を脱ぎ、これを疊んで左の腋下に狭み、平然として往來を歩いて居る。更に甚だしきは、ポストン市に行き、州廳の會議を傍聽した所、數百の議員中、十數人は上衣を脱いで會議に列して居つた。歐洲にあつては、斯かる光景は決して見られぬ。米人は此の點に於ても亦、暑熱と闘ふ爲に歐洲の傳習を打破して居るのである。日本でも夏向の洋服は寧ろ米國式に則る方がよろしからう。

#### 物質文明の偉力



美術、文學、乃至は音樂を學ばんとして、米國へ行く人あらば、その人は餘り賢い人とは云はれない。米國は無盡藏の富源を有し、これを利用する爲に國民全體が力限り根限に働きつゝある國である。従つて現代の米國から、贅澤品を要求するは無理な注文である。彼國は新發明の國である。科學的實物應用は遙かに歐洲の舊列國を凌いで居る。例へば電話の如きも、交換手の媒介を要せずして、自動的に先方に通ずる装置のがある。これはホノルルで見た。昇降機は米國が最も進歩して居る。大建築になると、それに急行と普通との二種が備へてある。急行はその名の如く、一度に最上層までも昇り、普通は二階三階と次第に昇つて行く。小規模の昇降機ならば、借室をしても附いて居る。ニューヨーク、ポストン、シカゴ邊では此種の昇降機に自動的のものが多い。急行と普通とで思出したが、紐育のサブ・ウェイ、即ち地下鐵道にも、此の急行と普通とがある。急行は十丁目位毎に停車し、普通は二三丁目位毎に停

車する。紐育市が喧騒しいのは、主として高架鐵道の音響である。電話、昇降機等の外、猶著しく旅行者の眼を惹くはすべての家具の發達である。就中、寢臺には種々なものがある。二つに疊めば本箱の如くなるあり、布の被をかければ、ピアノの如くなるあり、或はソファアの兩端を伸ばして、之に敷布をかけたれば直ちに寢臺となるあり、本箱の下に戸棚を引出せば忽ち二重寢臺となるありで、寢臺の新發明は今や競争の姿である。共同用の飲水器には噴水的に水が出で、茶碗を要せず、直ちに口をそれにつけて、飲める仕掛もある。その他、所謂物質文明の偉力なるものは、到る所に發揮され、家庭の臺所などは頗る科學的に出來て居る。これは歐洲のそれと大差はない。日本の臺所の如きは此點から見て、大に改良する餘地があらうと思はれるのである。

#### 米國式の活動寫眞

僕は生憎酷暑中、東部諸州を旅行したので、多くの學者や、宗教家が避暑に



出かけ、豫期の如く會見することが出来なかつた。そこで、殊にボストン市では度々活動寫眞を見て、風俗人情の研究を試みた。思ひ切つた活劇のそれが多かつた。南北戦争や獨立戦争の出來事を主として、銅色人種を材料としたものなど、如何にも仰山な米國式を發揮して居た。多くの活動寫眞館では、電燈を全く消すことなく、薄明りを保ちながら、立派に寫眞を見せる仕掛である。場内眞暗とならざれば、従つて種々なる弊害も伴はぬ様に見受けた。寫眞と寫眞とのあはひには、婦人が出て、正面に映されたる歌を歌ひ、折り返しには見物人に合唱せしめるなどして、新しい流行歌を擧める所ともなつて居る。或館ではエマルソン、カトライル、ゲーテ等の文豪の格言を寫し出したこともあつた。中には下品な繪を見せぬ所もないとは限らぬが、一方にかゝる清高なる趣味を供給する所もあるのは、多少米國活動寫眞の誇りであらうかと思ふ。

#### 物質か精神か

米國に於ける物質文明の進歩の一は、略ぼ以上の如くである。日本では、現今物質文明の爲に人間の神経が痲痺するとか、疲勞するとか、屢々人が云ふけれども、斯かる人がもし亞米利加へ行けば、直ちに眼をまはして、昏倒せねばならぬ。日本の物質文明は未だ初歩である。これから更に之を助長せしめる必要こそあれ、之を忌避する必要は毫もない。人間の精神が物質に支配せられるのは悲しむべきだが、刻下の如く精神が物質を利用して居る間は少しも憂ふるに足らないのである。生産力を増し、富力を増し、生活を安樂ならしむる點に於て、日本は更に——此の物質の進歩を歓迎せねばならぬ状態にある。唯忘る可らざるは、精神をして後者の奴隸たらしめぬ事である。精神さへ永遠に首腦として存すれば、物質文明も亦永遠に歓迎すべき世界文明の一面である。單純なる生活といふ福音は數年前バリの牧師ワグナー氏が、米國に渡つて説いた教訓であつた。金が儲かつて仕方がない米國人には、これが必要



である。しかし日本にこのうへ單純なる生活に入れよとすゝむるのは、素裸になれといふに異ならない。東京では電車の線も延長した。瓦斯電氣の使用者も段々多くなつた。されど大多数の家庭は未だ科學の賜を利用することを知らぬ。日本の家は休息するには詭向さだが、働くための家ではない。日本に大著作の少ないのは、家屋の累を蒙つて居る點もあるかも知れぬ。勿論現代文明は理想の文明ではない。されども一概に物質文明として之を排斥する勿れ。同時に米國を指して金力萬能の國と侮辱する勿れ。米人には散せんが爲に先づ金を集むるものが多い。ロックヘエラー、カーチギアの諸氏皆な然りである。勇氣のない、臆病な、引込思案な青年が米國に往かば、一見して大仕掛けの物質文明に吞まれて了ふであらう。されど強健なる體格を有し、かねて勃々たる雄志を懷くものにとつては、米國は黃金國である、理想郷である。されば、我國青年にして若し體軀壯健、兼ねて百折不撓の奮闘心を有つ

て居るならば、宜しく此黃金國、此理想郷に突進して、大に未來の大成功を開拓すべきである。區々たる非難攻撃に逡巡するは青年の爲すべき所でない。



明治四十四年十二月十七日印刷  
明治四十四年十二月十九日發行

定價金壹圓



不許  
複製

著者 內ヶ崎作二

東京市小石川區櫻木町六番地

發行者 葛岡龍吉

東京市京橋區日吉町十番地

印刷者 渡邊為藏

東京市京橋區日吉町十番地

印刷所 民友社印刷部

發行所 東京市小石川區櫻木町六番地 北文館

電話番町三五八一番  
振替口座一四四八四番



外國語學校  
教授

村井知至著

齋藤松洲挿畫

# 時代思想

菊版三百餘頁  
裝釘優美  
定價壹圓拾錢  
郵稅八錢

近時我國の思想界に於て燦然として一異彩を放つ者は實に著者が宗教觀なりとす其思索の深遠にして明晰なる着想の玄妙にして斬新なる眞に一代の大議論なり而して著者此根本義に據つて人生問題、社會問題、修養問題を解説して時代思想の趨勢を指導せんとする者即ち本書なり。附録冥想錄に至りては收むる所約八十篇言々教訓を泄へ句々趣味を漲らす眞に近時の思想界に稀有の良産物なり

北文館發兌

海老名彈正著

# 斷想錄

近刊

斷想錄は著者が教壇獅子吼の餘響也。片言寸句宗教を論じ、人生を語る、斷想の細漣其轟きや大ならずとするも、よく洋々たる靈海の壯姿を偲ばしむ。想を言外の妙趣に走せて、遠く連想の興會を恣にせしむるは蓋し斷片の尊むべき所以なり。

北文館發兌



日本女子大學校教授 松浦政泰著

# 奮闘の偉人

菊版參百拾餘頁  
肖像押畫拾葉  
定價金九拾錢  
郵税金八錢

大阪毎日新聞の批評に曰く本書は我國を始め英、米、獨、佛、西、澳、以、噠八ヶ國に於ける實業家、政治家、軍人、科學者、文學者、發明家、探檢家、說教家中の古今の名士三十名を選び其逆境に處する苦戰奮闘の徑路を記述して現代青年修養の資に供したる者行文平易流麗宛も新講談を讀むの觀ありて興味と教訓とを併せ享受するとを得べき近頃有益なる讀物なり

北文館發兌

早稻田大學講師 安部磯雄著

# 婦人の理想

菊版美箱入  
裝釘  
定價金壹圓貳拾錢  
郵税金八錢

婦人としての職務を偏重し人間としての發達に多く意を用ゐざる女子教育は根本的に誤れり男子と婦人は便宜上職務を異にすることあれども其體力智力徳力を發揮せしむるに當り其機會及び權利に於て何等相違のあるべき筈なし故に婦人の理想は出來得るだけ男子と並行して諸能力を開發せしむるにあらざるべからず今や婦人に對する著者の熱烈なる同情は凝つて本書をなす

北文館發兌



工-6R-10

日本女子大學校 教授 松浦政泰 著

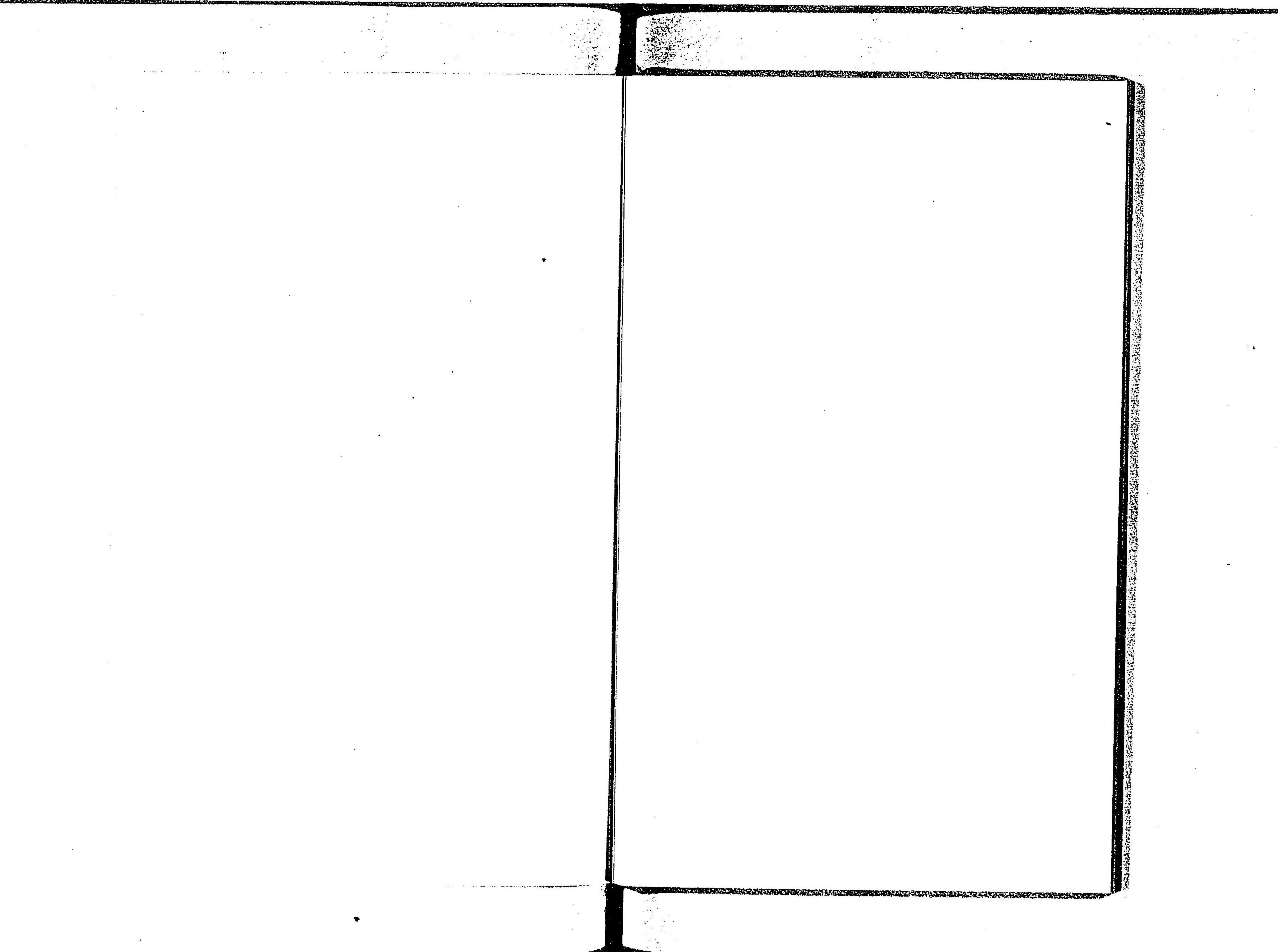
實用 少女と花嫁と主婦

菊版美裝 定價金八拾五錢 送料八錢

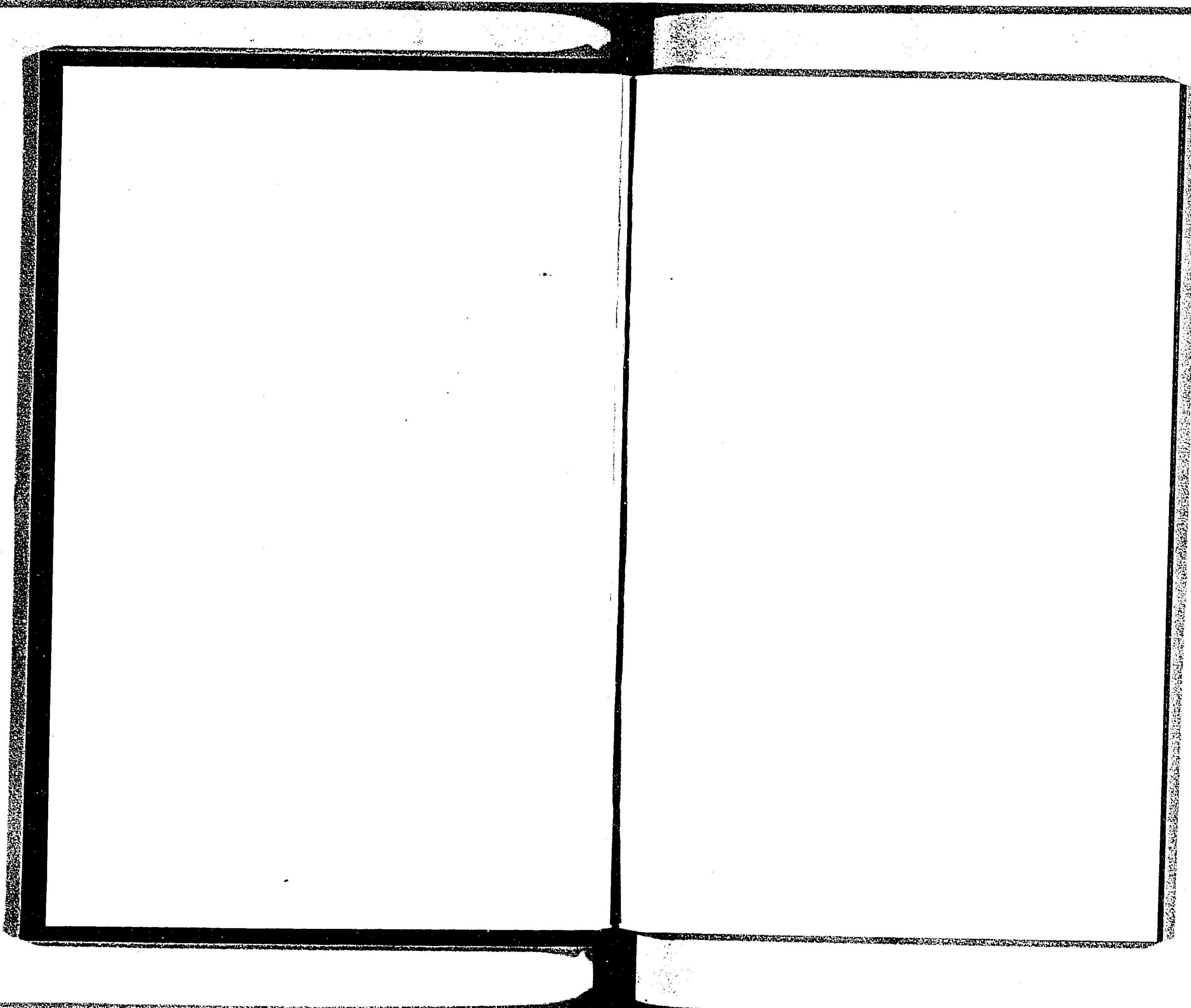
著者廿餘年の經驗に基き女子の教訓を頗る實際的に懇談したる者●少女の卷は高女卒業後に入るべき學校、執るべき職業、親の膝下にある時最も必要なる經驗と讀書と道德と宗教の四種の修養等●花嫁の卷は結婚問題と結婚前後の教訓等●主婦の卷は家庭經濟の精神と設備より良人、舅姑、子女、僕婢、賓客に對する心得等婦人一生の教訓を網羅せり

北文館發兌

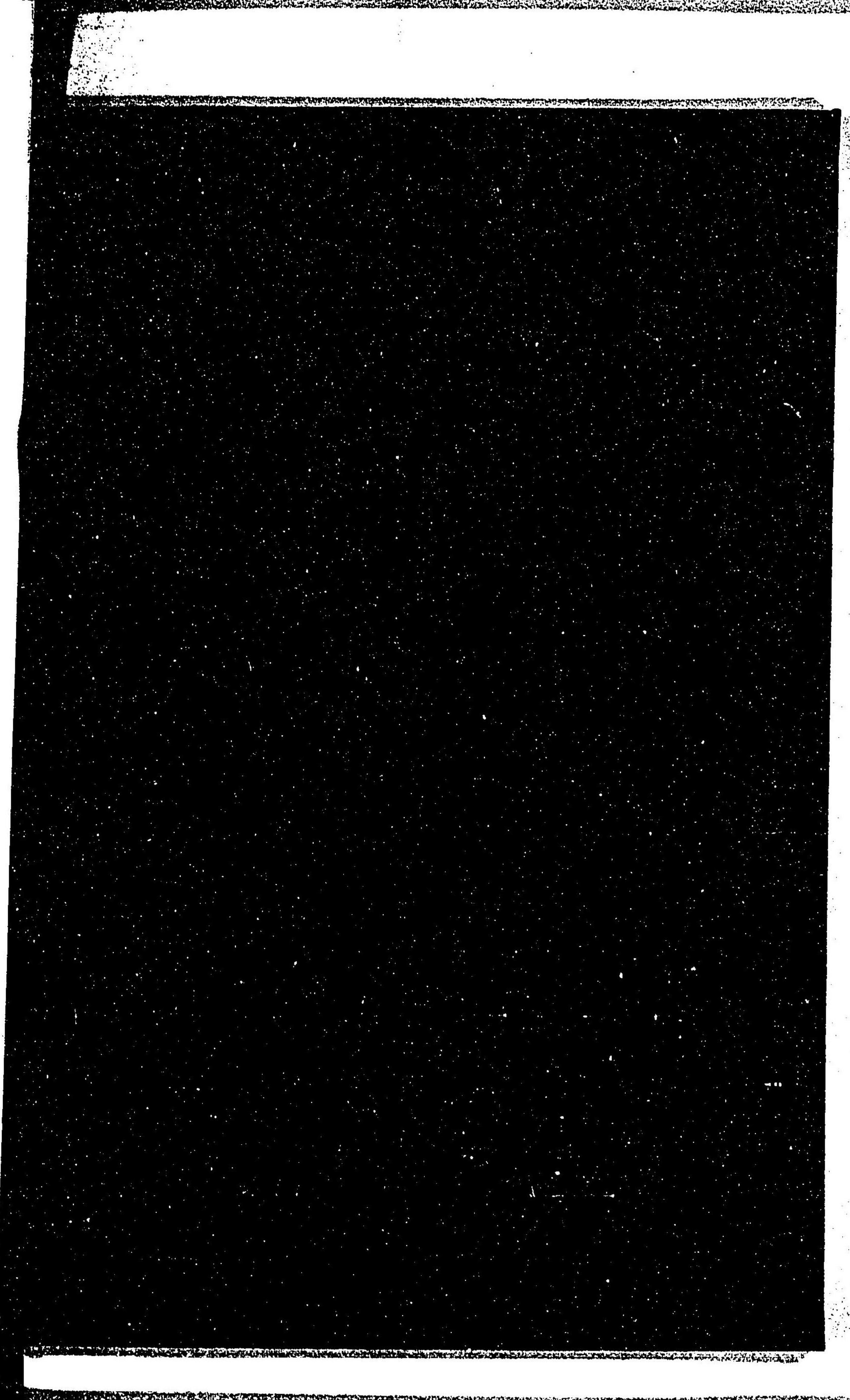














332  
210

026827-000-6

332-210

英国より祖国へ

内ヶ崎 作三郎 / 著

M44

ADF-0006





